

お薬のしおり

No.236(2022.2)

東京医科大学病院 薬剤部

お薬が飲み込みにくいときの工夫



普段飲んでいるお薬が飲み込みにくいと感じるようになった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。物を飲み込む動作を嚥下（えんげ）と呼び、一般的に嚥下機能が低下すると食べ物や飲み物を飲み込みにくいと感じるようになります。今回は嚥下機能が低下する原因とお薬が飲み込みにくいときの対応についてご紹介します。

●嚥下機能が低下する原因

嚥下障害は「器質性嚥下障害」と「機能性嚥下障害」に大きくわけることができます。「器質性嚥下障害」とは嚥下に関わる器官（口・喉・食道）、あるいはその周辺の組織そのものの異常により引き起こされる嚥下障害です。一方、「機能性嚥下障害」とは、嚥下に関わる神経や筋肉の機能異常により生じる嚥下障害を指します。嚥下障害の原因としては以下のようなものが考えられます。

分類	原因	
器質性嚥下障害	炎症	・口内炎・舌炎 ・急性扁桃炎・食道炎 など
	腫瘍	・口腔がん・咽頭がん ・喉頭がん・食道がん など
	その他	・異物・外傷・奇形 など
機能性嚥下障害	神経・筋疾患	・脳血管障害・脳腫瘍 ・パーキンソン病 ・筋ジストロフィー など
	加齢変化	・フレイル（虚弱体質） ・サルコペニア（筋力低下）
	薬物	・抗精神病薬・抗癌薬 ・抗不安薬 など
	その他	・うつ病・認知症 など

●お薬が飲み込みにくいときの対応策

※以下の項目については事前に薬剤師に相談してください。

①お薬の剤型（形状）の変更

お薬によっては様々な剤型が存在する場合があります、剤型を変更するだけでもお薬が飲みやすくなる場合があります。飲みやすい剤型としては「口腔内崩壊錠（OD錠）」と呼ばれる剤型があり、この剤型は口の中の唾液や少量の水でお薬が崩壊します。口の中で溶かしてから飲み込むことで、飲み込みにくさを軽減することができます。

②服薬ゼリーやオブラートの活用

市販の内服用ゼリーやオブラートを使用することで飲み込みにくさを解消できることがあります。錠剤だけではなく、粉薬用の内服用ゼリーなど、製品の種類も増えてきています。オブラートは水に浸すことで表面が滑らかになり、飲み込みやすくなります。なお、当院9階のコンビニエンスストアでも内服用ゼリーとオブラートを販売しています。

③簡易懸濁法

「簡易懸濁法」とはお薬をお湯に入れて、崩したり溶かしたりして服用する方法です。胃内にチューブを挿入しているような場合に、そのチューブからお薬を投与する時に用いられる方法ですが、お薬を飲み込みにくい方にも活用されています。以下のような手順でおこないます。

【準備するもの】

・1回分のお薬 ・約55℃のお湯 ・お薬を飲むときの容器（コップ等）

1. 約55℃のお湯を作ります。ポットで沸かしたお湯と水道水を2:1の割合で混ぜると適切な温度のお湯ができます。
2. 容器の中に、約55℃のお湯約20～30mlと1回分のお薬を入れ、5～10分程度放置します。
3. 容器内のお薬が崩壊したことを確認し、お薬を飲みます。
最後に容器内に残ったお薬を確実に飲みきるため、もう一度容器に水を入れ、飲むようにしてください。

ただし、お薬によっては「簡易懸濁法」をおこなってはいけな**いもの**があります。試される前に、必ず薬剤師に相談してください。

～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には医師または薬剤師までご相談ください。～